

# 人口増加策 建ぺい、容積率見直せず

## 寺田西ノ口・大畔とも反対

城陽市

城陽市は3日の市議会建設消防常任委員会(園崎弘道委員長)で、人口増加策の一つとして市西部の2地区で検討を重ねてきた都市計画(建ぺい率、容積率)見直し、地元住民の賛同が得られず実施できなくなったことを報告した。

市内の人口は96年8月の「8万5533人」をピークに減少に転じ、直近データ「7万8285人」は先月1日現在との比較では7248人減と、まちの活力を失いかねない憂慮すべき状況に陥っている。

そこで市はちょうど1年前、市西部の寺田西ノ口(4・4畝)247戸と寺田大畔(6・7畝)363戸の第1種低層住居専用地域(一部は第2種)を対象に、建ぺい・容積率を現況「50%・80%」から「60%・100%」に緩和する案を地元の市民に提示。昨年4から5月にかけて全戸アンケートにより意向を調査したところ、有効回答289戸のうち賛成

は41戸(14.2%)、反対は144戸(49.8%)、その他は「不明回答」となり、賛同は得られなかった。反対の理由として市民らは隣地との距離が近くなり、住宅悪化を懸念する、「率、用途地域は物件購入時に確認している」と、増築時の支障より住環境悪化を懸念しているこ

とが明らかになった。市内の第1種低層住専で、建ぺい・容積率を「50%・80%」としている地域はJR奈良線以东を中心に252畝と広く、良好な住環境が確保されているが、一方で2世帯住宅への建て替えが困難になり、若い世代が市外転出する要因ともなっている。今回、都市計画の見

直しが頓挫した市西部の2地区を選定した経緯について市都市計画課は「建ぺい・容積率

### 独居高齢者

城陽市

3日、昨年中の火災、救急、救助概要を市議会に報告。全体では火災は27件(前年比1件増)、救急出動は3467件(同36件増)、人員3339人(同18人増)、救助出動は26件(同6件減)、人員11人(同4人減)となった。一人暮らし高齢者の孤獨死が社会問題とな

### 迫力満点のラリー

## タイムアタックに歓声

### 城陽の山砂利跡地で

城陽商議所青年部(岡本勝人会長、60人)主催の自動車レースイベント「ラリーみんなどで楽しもうよ」が2日、城陽市長池の山砂利採取跡地(向大日産業敷地内)で開

かれ、約500人の家族連れらがオフロードコースを疾走する車の迫力に歓声を上げた。「地域を活気づけよう」と、青年部内の「今年はやるぞ!委員会」(粟井敬之委員長)が企画。昨年はメンバー限定で試行的に行い、今年初めて一般の市民やラリーのファンに観戦を呼びかけた。

会場には昨年の全日本総合ラリーキング2位の奴田原文雄選手(50)や、城陽市出身で青年部のメンバーにも入っていると、この2人が運転する車に同乗できる「レース体験」もあり、参加した子供たちはドキドキ、ワクワクの体験を楽しんだ。

岡本会長は「遠くは神奈川県から来た人もおられた。今後も会場の協力が得られれば、継続させていきたい」と意欲を示していた。



エンジン音轟かせ、砂利道を走行するラリーカー

社会(会)が運営(営)が保(保)長、1(一)ケ原(原)来統(統)色(色)など(等)席(席)ド(ド)が(が)開(開)が(が)着(着)物(物)は、(は)全(全)園(園)で、優(優)々(々)合(合)わ(わ)せ(せ)ど(ど)行(行)車(車)も(も)在(在)「ホ(ホ)ー」に(に)し(し)て(て)胸(胸)に(に)と(と)が(が)恒(恒)

城陽市

# 「建ぺい率・容積率緩和」断念

## 人口増加策のいつかん空振り

### 住民の半数が反対、賛成14%

17年間に7千人の人口が減った城陽市は、人口増加策のいつかんとして、住宅地内での「建ぺい率・容積率の緩和」を打ち出していたが、対象地域の住民アンケートの結果、反対意見が多く、断念したことを3日開かれた市議会建設消防常任委員会(園崎弘道委員長・委員9人)に報告した。通常、住民アンケートなどを実施して、市の施策を決めることはあるが、逆のケースは珍しい。

昨年3月4日に開かれた同委員会で、市が「建て替えを促進し、流出を防止し人口増加を図る」との目的を掲げ、見直し方針を示した。建ぺい率(敷地面積に対する建築面積の割合)・容積率(敷地面積に対する延べ床面積の割合)を緩和することで、二世帯住宅を可能にして、若い世代の流出を防ぐとの狙い

いで打ち出したもの。既存の住宅地で、建築条件を緩やかに変更するとうこうした施策そのものも、関西圏では初の取り組みとして注目された。

市内には、「建ぺい率50%・容積率80%」の地域が、JR以東の東部丘陵地をはじめ、以西も含め7カ所に252軒ある。この内、「建ぺい率60%・容積率100%」に隣接している、同条件に見直し比較的容易な寺田西ノ口の4・4軒及び寺田大群の6・7軒の2地域で、緩和を検討。実施にあたり市は、昨年4月にアンケート調査、今年1月に意見書提出を求め、対象地域の住民の意向を確認した。アンケート調査の結果、西ノ口247世帯、大群363世帯の内、合計610世帯の内、289世帯から回答(回答率47・4%)があり、賛成が41世帯(14・2%)、反対が144世帯(49・8%)、不明が104世帯(36・0%)という結果だった。反対意見の内容は、「隣地との距離など住宅環境が悪化する」「土地の価値が下がる」「購入時に条件を納得して来た」

## 山砂利採取跡地で迫力ラリー

### 城陽市 商議所青年部が活性化目的

城陽市の山砂利採取跡地で2日、「今年はラリーみんなで楽しもうよ!」との催しがあり、レーシングカーが疾走する迫力のシーンがくり広げられた。他府県からもラリーファンら500人が参加してにぎわった。

城陽商工会議所青年部(岡本勝人会長・会員60人)が、地域活性化を目的に開いたもの。2013年全日本ラリー

ー選手権年間ランキング5位のプロ・ラリードライバー福永修さん(43)が青年部メンバーに居ることから、広々とした絶好のロケーションでの開催となった。昨年は、試験的にメンバーのみで「安全運転講習」を体験実施、今年是一般にも呼びかけた。

会場は城陽市長池五社ヶ谷、有限会社大日産業の敷地内。山有り、谷有り、ヘアピンカーブ有りの1周1・2キロのコースが設営され、スピードを競う「タイムアタック」レースに30人がチャレンジ。福永さんに加え、日本人初のモンテカルロ・ラリーPWR C優勝などで世界ランキング2位の実績もある奴田原文雄さん(50)が来場、2人が運転するレーシングカーへの同乗体験も行われた。



迫力あるラリー走行を見る人達

【藤本博】

などを踏まえ、同対象にアンケートを知らせた上意見求めた(5・7%)、は極めて低調賛成34・3%・0%と賛成上回ることは

## 孤独死3人、

### 城陽市 建物火災9

3日開かれた城陽市議会建設消防常任委員会(園崎弘道委員長・委員9人)で、市消防本部は「平成25年火災・救急・救助の概要」を報告したが、統計数値には出てこない、自死者の件数や内容、孤独死の状況などが、議員の質問で明らかになった。

概要報告によると、救急出動3467件・搬送人員3339人で、前年比件数で送人員で18人、ずれも過去最前年より3件いる。原因の(%)は「放火疑い」で例年若山憲子(産)は、「自件」の状況は、との関係は、ねた。西村裕主幹が「首吊5人、外傷性人、練炭自殺答えた。議員「高齢者の孤独死」とたずね幹は「自宅でおり、搬送し人数は18人。死後数日以上

## 一般

宇治田原町日、6日に開月定例会の17人の議員が一般質問は10時からの予定と要旨は次(